

『受洗決心された みなさんへ』

Prepare for Baptism



信仰生活で大切なことは、神さまの恵みとみ言葉に導かれて歩むことです。洗礼もまた、神さまの恵みの中にあることを覚えていてください。

都島中央キリスト教会

<https://miyakojima-ch.com/>

◇洗礼に備えて◇

信仰生活で大切なことは、神さまの恵みとみ言葉に導かれて歩むことです。洗礼もまた、神さまの恵みの中にあることを覚えていてください。

■1. バプテスマはなぜ受けるのでしょうか？■

▼「バプテスマを受けなくても、キリストを信じていればそれでよいのではないか」という意見もあります。なぜバプテスマを受けるのでしょうか？

☆**Answer.....それは、神の御心（みこころ）だからです。**

I. 主イエスが命じられています。(マタイ 28:19)

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。

「キリストを信じる」ということは、「キリストの約束のみ言葉を信じる」ということです。“キリストが言葉で約束されたことは、必ず果たして下さる”と信じること、これがキリスト教の信仰です。(マルコ 16:16)

II. バプテスマを受けることによって、信仰をあらわし、従順(心から従う)の第一歩を踏み出すこととなります。(ローマ 10:10)

「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」

聖書に記されているキリストの約束（聖書）の み言葉を大切だと考えている限り、バプテスマは信仰生活の必要条件なのです。

<参照聖句> 聖書 使徒 2:40-41 8:12 35-38

■2. バプテスマを受けるのに資格は必要でしょうか？■

▼それを受けたいと思う者がだれでも受けられるのではなく、条件があります。

☆ **Answer.....それは、キリストを自分の救い主と信じ、従う者です。**

I. イエス・キリストをあなたの救い主と信じているということです。(使徒 2:38, 41)

「すると、ペトロは彼らに言った。『悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。』」

II. あなたのこれからの全ての歩み（人生）をキリストの支配（導き）にゆだねる決心が必要です。(…実はこれはIに含まれる内容です。)

▼ 一生ずっとクリスチャンとしてやっていけるかどうか心配が起こってきますが、あなたのその心配(不安)を大切にしてください。自分の意志や能力でやって行けるとい、自信や見通しがあるなら信仰は不要になるからです。あなたのその不安を神さまにお祈りしてゆだねることが大切です。自信がないからこそ、キリストの約束の言葉を頼りにして、キリストの救いに期待するわけで、実はそれが信仰生活なのです。

■3. バプテスマはどのような意味があるのでしょうか？■

▼ バプテスマは「浸す」という意味です。全身を水の中に浸すからです。

☆ **Answer.....それは、信仰の「^{しやうちやう}象徴」と「告白」という意味です。**

I. ^{しやうちやう}象徴 (シンボル) しての意味 (ローマ 6:3-5)

6:3 それともあなたがたは知らないのですか。①キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、②またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。6:4 わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。③それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。6:5 もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。

わたしたちは、キリストを救い主として信じる時聖霊の働きにより「キリストに結ばれるバプテスマ」を受けるのです。つまり、キリストの中に「浸される」のです。「キリストに結ばれるバプテスマ」とは、キリストのいのちと一体にされることをさしています。

この聖霊による「イエス・キリストに結ばれるバプテスマ」という<実質的な内容の象徴としてのバプテスマ>を受けるのです。

II. 信仰の告白としての意味 (ローマ 6:6-10)

6:6 わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。6:7 死んだ者は、罪から解放されています。6:8 わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。6:9 そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。6:10 キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。

<信じる者のうちに行われる霊の事柄>を、形に現して、公に神と人々との前に明らかにすることです。砕けて言うと、「お葬式」と「誕生日」を同時に行うようなものです。キリストにあって死に、キリストのいのちに生きることを公にするのです。